

第 64 回 EICMA 展（ミラノ展）

EICMA 展が、2006 年 9 月 15 日（金）～18 日（月）の 4 日間、新しいイタリア・ミラノ国際見本市会場（フィエラ・ミラノ）で開催された。2003 年から自転車、オートバイは別々の開催となり、自転車単独では 3 回目の開催となった。

- 主催： 自転車・オートバイ国際展覧会（EICMA）
- 会場： ミラノ国際見本市会場（イタリア）
- 会期： 2006 年 9 月 15 日（金）～18 日（月）4 日間開催
- 開催時間： 10:00～18:30（最終日のみ 17:30 終了）
- 使用ホール： 22、24 ホール 展示面積：17,900 m²（前年 21,032 m²）
屋外イベントエリア：5,000 m²（前年 19,800 m²）
- 入場者数： 15 日～18 日 80,000 人（前年 115,000 人）
- 出展者数： 23 カ国 667 社（前年 30 カ国 804 社）



入場口付近の様子



ピナレロ（イタリア）

概要

主催者によると、初日の来場者数は全国的なストライキや天候不順により、前年比で 10% も落ち込む結果となった。また、会期をとおしての入場者数も前年比で 40% 減少した。

展示内容はやはりイタリアらしくレース車、特にロードレーサーが主体である。会場内ではピナレロ、デ・ローザ、オルモ等の高級イタリアブランドの各ブースに来場者が集中し常に来場者で満たされていた。

各出展者とも高～中価格帯自転車のフレーム素材としてはカーボンがメインであり、中～低価格帯はアルミという構成が多く見受けられた。各社様々な製品の展示を繰り広げていたが、カーボン車については黒地ベースに白や赤の配色等が多く見られ、どれも似たようなデザインとなりつつあり、今後他のメーカーとの差別化が求められる。また、IFMA 展には参加しなかったトレックやメリダ等も見ることができた。特にメリダはレースでの活躍が認められ、ジャイアントに劣らない規模で出展し、注目を集めていたのが印象的であった。

日本企業はキャットアイとタンゲセイキが現地代理店を通じて出展していた。またファッションの街・ミラノらしくアパレル関係の出品も多く、アシックスやパールイズミもサイク

ルウエア類を出展していた。

来年は同じ会場で、2007年9月14日（金）～17日（月）4日間開催の予定である。



カーボン車（デ・ローザ）



フェラーリ・クロスバイク（コルナゴブース）

（デュッセルドルフ事務所）